

平成28年度全国学力・学習状況調査結果の概要

熊野市教育委員会

1. 教科に関する調査結果について

小学校の調査結果については、全教科の平均正答率が全国平均を若干上回った。中でも、算数Aについては、全国平均を4.1ポイント上回った。

中学校の調査結果については、全教科の平均正答率が全国平均を若干下回ったものの、該当生徒が小学校6年生の時の結果と比較すると、全国平均とのポイント差が大きく縮まった。

【小学校】

	国語A	国語B	算数A	算数B	全教科平均
熊野市	70.6%	56.7%	81.7%	47.8%	64.2%
三重県	71.7%	58.1%	78.3%	47.1%	63.8%
全国	72.9%	57.8%	77.6%	47.2%	63.9%
全国との差	-2.3P	-1.1P	4.1P	0.6P	0.3P

【中学校】

	国語A	国語B	数学A	数学B	全教科平均
熊野市	74.7%	65.1%	61.3%	39.6%	60.2%
三重県	74.4%	64.3%	62.2%	43.2%	61.0%
全国	75.6%	66.5%	62.2%	44.1%	62.1%
全国との差	-0.9P	-1.4P	-0.9P	-4.5P	-1.9P

※経年結果については別紙参照

2. 各教科における特徴

(1) 小学校

① 国語A 主として「知識」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均より下回っている。

設問内容では、「今日は全国的に快晴だ」の「かいせい」という漢字を読むことについては、89.0%の児童ができており、全国平均を約10ポイント上回っている。また、表現の仕方をよりよくするために助言することを問われた選択式設問については、72.5%の児童ができており、全国平均を約5ポイント上回っている。

しかし一方で、漢字を正しく書くこと、平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと、目的や意図に応じて書く事柄を整理することは、全国平均を6～16ポイント程度下回っている。

②国語B 主として「活用」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均より若干下回っている。また、これまで課題であった記述式の解答については、全国平均を上回る設問もあり、課題が改善されてきている。

設問内容では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にし、紹介したい内容をまとめて書くことについては、61.5%の児童ができており、全国平均を約9ポイント上回っている。

しかし一方で、質問の意図を適切にとらえ適切なものを選択することについては、全国平均を10ポイント程度下回っている。

③算数A 主として「知識」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均を大きく上回っている。

設問内容では、「 $2.1 \div 0.7$ 」を工夫して計算するとき除数・被除数に同じ数をかけても商が変わらないことを理解しているかについては、81.7%の児童ができており、全国平均を約13ポイントと大きく上回っている。また、数の大小関係の理解についても、81.7%の児童ができており、全国平均を約8ポイント上回っている。

しかし一方で、割合の意味についての理解を問う問題が全国平均を約3ポイント下回っているが、全国平均を下回った設問は、この1問のみである。

④算数B 主として「活用」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均を若干上回っている。また、これまで課題であった記述式の解答については、全国平均を上回る設問もあり、課題が改善されてきている。

設問内容では、乗法や除法の式の意味を解釈し、3つの式が何を計算しているかの説明文を選ぶ問題については、73.4%の児童ができており、全国平均を約11ポイントと大きく上回っている。

しかし一方で、単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができるかを問う問題は、全国平均を約10ポイント下回っている。

(2) 中学校

①国語A 主として「知識」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均より若干下回っている。

設問内容では、質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書くことについては、88.7%の生徒ができており、全国平均を約10ポイントと大きく上回っている。また、語句の意味を理解し、文脈の中で適切な語句を選択する問題で「厳しい挑戦だということは、もちろん分かっています」と表現する問題が、当市の正答率が100%であった。このことから、当市の中学生一人残さず全員が、問題に対してきちんと取り組んでいることがわかる。

しかし一方で、文の成分の照応について理解し、文章を書き直した意図として適切なものを選択する問題は、全国平均を約13ポイントと大きく下回っている。

②国語B 主として「活用」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均より若干下回っている。また、これまで課題であった記述式の解答については、全国平均を上回る設問もあり、課題が改善されてきている。

設問内容では、目的に応じて必要な情報を読み取り物語に書かれている事柄について図鑑の説明から分かることとして適切なものを選択する問題については、72.6%の生徒ができており、全国平均を約5ポイント上回っている。

しかし一方で、文章の構成を捉え雑誌の記事の説明として適切なものを選択する問題については、全国平均を約12ポイントと大きく下回っている。

③数学A 主として「知識」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均より若干下回っている。

設問内容では、分数と小数の乗法の計算 ($2/5 \times 0.6$) については、75.0%の生徒ができており、全国平均を約8ポイント上回っている。また、空間における直線と直線との位置関係(三角柱における辺と辺とがねじれの位置にあること)を理解していることを問う問題については、83.9%の生徒ができており、全国平均を約8ポイント上回っている。さらに、1枚の硬貨を投げたときの確率について、正しい記述を選択する問題では、80.6%の生徒ができており、全国平均を約15ポイントと大きく上回っている。

しかし一方で、自然数の意味を理解しているかを問う問題や、一元一次方程式を解くことについては、それぞれ全国平均を約7ポイント下回っている。また、反比例のグラフ上の点の座標から、XとYの関係を式で表すことについては、全国平均を約10ポイント下回っている。

④数学B 主として「活用」に関する問題

全体として、当市の平均正答率は全国平均より下回っている。

設問内容では、グラフの傾きを事象に即して解釈することや問題場面における考察の対象を明確に捉えることについては、それぞれ30.6%、76.6%の生徒ができており、全国平均を若干上回っている。

しかし一方で、適切な事柄を判断しその事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することや、加えるべき条件を判断しそれが適している理由を説明すること、付加された条件の下で新たな事柄を見だし説明することなど、説明を記述する問題では、それぞれ全国平均を6～8ポイント程度下回っている。

3. 児童・生徒質問紙調査結果について

質問紙調査結果からは、授業の中の「めあて・振り返り」の取組について肯定的に回答した児童生徒が、全国平均を上回っている。このことは、授業の中でこれらの取組が、児童・生徒に実感として残っているということであり、学校における授業改善が進んできていることが伺える。

また、小中ともに、「新聞を読んでいる。」を肯定的に回答した児童生徒が、全国平均を上回っている。これは、児童・生徒の実態として、この地域に密着した地方紙をよく読んでいるということが考えられる。このことは、地方紙のこの地域の児童・生徒が活躍する様子などの積極的な取材や、各小中学校や社会教育、スポーツ少年団、教育関係団体等からの積極的な情報発信などにより、記事掲載が増えていることも要因として考えられる。さらに、教科調査結果の中で、当市が国語の漢字の読みについて、小中ともに全国平均を上回っていることも、「新聞を読んでいる。」が全国平均を上回っていることと相関があるのではないかと考えられる。

【児童質問紙（小学校）】

回答の割合が全国平均を上回っている項目

○5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：90.9% 全国：87.6%

○5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：89.0% 全国：76.1%

○友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：67.9% 全国：51.7%

○学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：77.0% 全国：58.6%

○新聞を読んでいますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：43.1% 全国：24.0%

回答の割合が全国平均を下回っている項目

○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

・「1時間以上」と回答した割合 熊野市：18.3% 全国：25.5%

○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：58.7% 全国：68.3%

【生徒質問紙（中学校）】

回答の割合が全国平均を上回っている項目

○1，2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：92.8% 全国：84.9%

○1，2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：75.8% 全国：63.1%

○1，2年生のときに受けた授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：92.0% 全国：77.8%

○新聞を読んでいますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：32.3% 全国：18.3%

回答の割合が全国平均を下回っている項目

○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

・「1時間以上」と回答した割合 熊野市：57.2% 全国：67.9%

○国語の勉強は好きですか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：47.6% 全国：59.8%

○数学の勉強は好きですか

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：49.2% 全国：56.0%

○「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：42.0% 全国：57.7%

4. 学校質問紙調査結果から見えてきた傾向

全国学力・学習状況調査では、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査も実施しています。

その中で、「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れたか。」「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか。」「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有しているか。」については、すべての小中学校が肯定的に回答しており、学力向上・授業改善に向けて、各学校が取組を具体的に進めていることが伺えます。

その一方で、「資料を使って発表ができるよう指導したか。」「国語の指導として、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったか。」「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか。」等を肯定的に回答した学校が少なく、課題改善に向けた取組をよりすすめていく必要があります。